の状態におかしめないという考えから考案されているものであります。児童中心主義の教育観からいたしますならば、児童を監視したり、世話をやくよりかは児童の要求を満たしてやるような工夫をすることが効果的であるということになります。勿論児童の求めるものを無視しては教育は行われませんからこの考は至当であります。然し児童の求めるものをそのまゝ満すのみでも指導はあり得ません。寧ろある程度の要求阻止の経験はのぞましい人格形成の上から見て必須のものであります。この経験を通して児童は自己評価や、現実認識の度を深め、人生に不可避のものとなつている要求阻止によく耐え、それを克服打開してのぞましい適応をなしとげる技術を習得し、要求阻止によつて却つてある仕事への熱心、努力、さらには創造的活動さえ引き起されることもありますから要求阻止必らずしも有害ではありませんが、我々は無意識的にあまりにも行く児童を躾けるの美名の下に彼等の要求を阻止して思わしからざる人格を形成せしめているのではないでしょうか。他山の石として外国に於ける保育用品を紹介した次第であります。

音遊び

大阪基督教短期大学
小木曾　光

今、ラジオからどんなに美しい音楽が流れて来ても、それを聴こうとする態度と心がなくては音楽としては聴えず、たゞ音として聴えるかも知れませんし、又全く何も聴えないかも知れません。

四月に入園して来た子供がマーチに合せて手が打てない、歩けない、と云うのは何故でしょう。未分化時代であると云う事もありますが、私は又、次の二つの場合もあるのではないかとも考えて見ました。

一、その子供の持つているリズムに音楽リズムが合わない場合。

二、音を聴く態度と心が出来ていない場合。

　そこで私は音を聴く態度を養う為に興味面白く変化をつけて子供達に種々な「音遊び」をして見ました。すると拍手はマーチに合い足踏みが出来、次は歩ける様になつて来ますが、これは子供自身生れながら持つている所のリズム感覚が「音遊び」によつて引き出されるからではないかと思います。今ここに家を建築しようと思いますと先づ最初に測量をし、その土地に適した設計を考えて図を書きます。それから地ならしをして設計通りに縄が張られて地面が掘られ、その溝に小石を入れて基礎工事をしつかりしてから土台石を置きます。音楽教育に於ては測量や設計図等は音楽環境調査やその他の調査に当り「音遊び」は地ならしや基礎工事の様なもので土台石はリズムに当ります。此の土台石のリズムの上にメロディイ、ハーモニーの柱が立てられて尚、音色も加わつて音楽と云う家が出来上つております。リズム感の確立によつてメロディー感なり、ハーモニー感は本質的になつて行き、リズム感の不安定は幾らその上にメロディ感やハーモニー感を積み上げても結局、崩れ易いものとなつてしまいます。音楽の土台石であるリズムは基礎工事のやり方一つによつてゆるぎない土台石となるのであります。ですから幼稚園や保育所に於ての音楽教育は「遊び」の形式（学習）で基礎から系統立て、指導しなくてはならないと私は考えて入園式のその日から二ケ月位は「音を聴く」ことを中心に色々な遊びを工夫しております。庭に遊んでいる時でも「あれ何の鳥でしょう」と云えば砂場の子供は、お団子作りの手を止めて、じつと耳をすまします。「聴えなくなる迄、飛行機の音を聴きましょう」と云えば、皆無心で耳をすまします。此の態度と心境が大切な事で、将来、良い音楽を聴き分ける耳を持ち、又、他人の話を静かに聞く習慣を養う第一歩になると思います。

　或る日の事、路で出逢つたお母さんに「まあ先生！　此の頃家では面白い事が流行つていましてねェ。『靴の音あてごつこ』なんですよ、それが美代子が一番良くあてるんですよ」と云う事を話して下さいましたが、幼稚園でしている「音あてごつこ」が家に帰つて迄しているらしいのです。美代子ちゃんの大好きな「音あてごつこ」の音とは何でしょう。私は子供達に音話をして、

一、音はどうして起るでしょう。
二、音は何故聞えるのでしょう。
三、音の種類と、その出し方、等についても話してあげました。

　音遊ひとしては次の様なものを作りました。

一、太鼓の時計　太鼓の音を数えます。
二、石ひろい　太鼓の音の数だけ石を拾わせます。
三、耳すまし　自然界やその他の自分の周囲に起る音を聴きます。
四、音あてごつこ　楽器やその他の音を聴いてあてさせます。
五、好きな音　㈣で当てた音の中から答えさせます。
六、きれいな音　㈣で当てた音の中から選び出します。
七、高い音低音　㈣で当てた音の中から選び出します。
八、ピアノの高音部　背伸びして歩きます。
　ピアノの中音部　普通に歩きます。
　ピアノの低音部　這つて歩きます。

九、音の強弱　山彦遊び。
十、音の速さ（スタッカット）　椅子取り、まりかくし、音の汽車
十一、音の方向遊び
十二、名前あて　以上

これからの日本を背負つて一歩々々前進して行つてくれる今日の幼児達が、やがて各自の力で建てるであろう音楽の殿堂を、砂丘の上に土台石を置かない様に、しつかりした基礎工事をしてやりたいと考えて私は色々工夫しております。

幼児の相談事例について

愛育研究所
竹田俊雄

一

幼児の教育相談にあらわれた「社会性の乏しい子」について考察する。

この種の相談は昭和二十七年度中に愛育研究所で私が取扱つた相談およそ六〇〇件中、三五件ある。年令は就学前のみをとり、またはじめから精神薄弱が主となつている事例は範囲外とする。

主訴としては
友達と遊べない（五）
無口、幼稚園で話さない（九）
内気、はにかむ（六）
遅滞している（二）
知能程度（六）
就学、就園（六）
一人子の指導（一）